

① 神戸新聞文芸に掲載された俳句の中で、最も気に入った俳句を選びましょう。また、その理由を書きましよう。

② あなたも最近の出来事や思いを俳句にしてみました。  
(季語を入れましよう)

理由

俳句 水田むつみ選

特選  
入選

コロナ禍に怯え過ぎせば四月尽

神戸市 福永 待子

今日生きる事の重さよマスク縫ふ  
春陰や余白ばかりのカレンダー  
亡き母の聖書の重し桃の花  
ほととぎすまだ明けやらぬ床の中  
鮎子の不漁垂水の路地さびし  
コロナ禍に耳目うばはれ桜散る  
寄居虫の波に遊ばれても歩む  
静けさの風が転がす花吹雪  
支へ合ふ言葉力や花は葉に  
夏めくや海の匂ひのレストラン  
石像の四十七士に舞ふ桜  
目に見えぬ力と戦ふ春の風  
外に出て愛でてやらねば里桜  
母の日や母居ぬ部屋に母の杖

加西 玉田 幸代  
加古川 白石 文代  
丹波 芦田 雄作  
加古川 池田 秀昌  
神戸 大濱 義弘  
豊岡 岡谷 邦人  
明石 小田 龍聖  
淡路 来田 洋  
神戸 坂口 榮  
明石 末永 拓男  
豊岡 末森 資枝  
加西 高井 美里  
朝来 高橋久美枝

春夕焼幸せ色に空染めて  
チューリップ今は勉強一途の子  
ありつたけの思ひ出迎る遍路かな  
春寒し世界を揺らす感染症  
見えぬ敵総べて落花のしきりかな  
人恋し時の止まりて亀鳴きぬ  
譲歩のみ多きにちにち著我の花  
花曇パンデミックやいつ果つる  
空は蒼いのちはじまる山若葉  
しあはせはふつうのくらし初桜  
春風や心の窓も開け放し  
一畝の土に入りくる春の風  
ウイルスにうろたへる国耕せり  
なだらかに空傾いて卯浪立つ  
野遊の空へ近づく棚田かな  
帰り来ぬ子に思ひ馳せこいのぼり  
船笛の二たび三たび朧月  
コロナ禍に立ち入り禁止藤の棚  
小手毬や屯すことを拒まるる  
ふらここや押しやる父の手の広し  
春光に膨れし浪の鎮まれり

上郡 高橋 雅之  
神戶 中川 博司  
宝塚 西垣 靖久  
赤穂 西原 律子  
神戶 橋本まさ子  
丹波篠山 浜園みち子  
神戶 原口 澄子  
加古川 原口 洋子  
加古川 東田 強  
相生 藤原 節子  
神戶 福増 雅裕  
加西 前川 和市  
丹波 前畑 幸子  
神戸 益田 信行  
多可 松下 孝裕  
朝来 松野 勝枝  
明石 松本 和子  
明石 三島 正夫  
養父 森本 満枝  
神戶 安田 悦子  
洲本 脇村 智養

【評】新型コロナウイルスの感染がたちまち世界中に広がり、封鎖や三密自粛等、今までとは全く違った生活を余儀なくされている日々。特に春は行事も多く、卒業、入学、祝い事、旅など予定がぎっしりと詰まっているカレンダーのメモがむなし。怯えて過ぎし瞬く間に四月が過ぎてしまった事への作者の無念さが伝わる。入選一句目、予防のマスクを縫って「生きる事の重さ」の実感。二句目、自粛生活では計画が立てられない。